

第〇学年 理科(科目名) 学習指導案 (例)

学習指導要領や、国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校理科』(令和3年8月)(以下、「参考資料」という)などを参考にして作成する。作成する際は、単元を構想した上で、本時の授業の位置付けを考える。

〇年〇月〇日(〇) 第〇校時
 〇〇高等学校〇年〇組〇名
 使用教室 〇〇室
 指導者 〇〇 〇〇

1. 単元名(教材名)

*学習指導要領における中項目を単元とする(中項目については「参考資料」P.32を参照)。

2. 指導について *指導者の立場で記述する。

(1)教材(題材)観

*教材の価値や、教材を学習することで得られる効果、学習の系統性における位置付けなどを記述する。

(2)生徒観

*単元に対する生徒の認識や学習経験、学習集団としての状態、事前アンケートのデータなどを記述する。

(3)指導観

*上記の二つの観点を踏まえ、どのように指導するのかという指導の重点や工夫点、個に応じた指導の具体などを記述する。

3. 単元の目標 *生徒の立場で記述する。

(1)

【知識及び技能】

(2)

【思考力、判断力、表現力等】

(3)

【学びに向かう力、人間性等】

単元の学習内容について、どのような活動を通して、生徒にどのような資質・能力を身に付けさせたいのかを記述する。

4. 単元の評価規準 *「単元の目標」の実現の状況を観点別に記述する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、単元(中項目)の評価規準を作成する(「参考資料」P.46~47を参照)。 (「内容のまとまりごとの評価規準」については、「参考資料」P.30~33を参照。)</p>		
<p>[文末表現] ~を理解している。 ~を身に付けている。 など</p>	<p>[文末表現] ~を見いだして表現している。 など</p>	<p>[文末表現] ~しようとしている。 など</p>

5. 指導と評価の計画(全○時間)

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	<p>(例) 物体の質量と加速度の大きさとの関係を調べる実験を行い、その結果をグラフに表して規則性を見だして表現する。</p> <p>*単元の目標を実現するための学習活動の展開を考える。前後の授業との関連や他の単元の学習とのつながりを意識する。</p>	思	○	<p>(例) 実験の結果から、物体の質量と加速度の大きさとの関係を見だして表現している。 [記述分析]</p> <p>*単元の評価規準に沿って、各時の評価規準を具体的に記述する。観点別の学習状況について、実現状況を把握できる段階で評価を行うなど、評価する場面を精選する。多様な評価方法(パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価など)を取り入れる。</p>

毎時間の評価の観点は一つか二つにし、実際に評価できるかどうかをイメージして計画する。

指導に生かす評価(無印)と、指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価(○)を明確にする。

※記録の欄が空欄になっているものは指導に生かす評価、○が付いているものは指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価を表す。

6. 本時案(○時/全○時間中)

(1)本時の題材名

(2)本時の目標 *生徒の立場で記述する。

*「単元の目標」や「指導と評価の計画」のねらい・学習活動を踏まえながら、この時間でどのような力を、どのような学習活動を通して身に付けさせるのかを簡潔に記述する。

(3)本時の評価規準

*「指導と評価の計画」や「本時の目標」に照らして、おおむね満足できる状況を観点ごとに記述する。

(4)本時の評価の具体

「十分満足できる」と判断される状況(A)

*評価規準に照らして、学習の実現状況の程度からその高まりや深まりをもっていると判断される状況を想定して記述する。

「努力を要する」と判断される状況(C)と生徒への手立て

*その時間の学習活動において、評価規準を達成することができそうにない生徒に対して、指導者がどのような手立てを講じるのかを記述する。

(5)本時の展開

学習場面	学習活動	指導上の留意点	評価方法等
導入 ○分	課題: *生徒に示す本時の目標を「課題」などとして記述する。		
展開 ○分	<p>(例) 実験で得られたグラフから台車の質量と加速度の大きさとの量的な関係性や規則性を見だし、根拠を示して表現する。</p> <p>*具体的な学習活動について、生徒の立場で記述する。 *学習の形態(個人・ペア・グループ・一斉)も記述する。 [文末表現] ～に気付く。 ～工夫する。 ～考える。 ～を知る。 ～を聞く。 ～発表する。 ～まとめる。 など</p>	<p>(例) 関係性について定量的に捉えることができない生徒に対しては、実験の目的や要因を再確認し、実験結果から質量と加速度との関係を定量的に捉えるよう助言する。</p> <p>*学習活動を充実させるための指導のポイントや、予想される生徒の反応とそれに対する支援方法などを記述する。 [文末表現] ～できるよう助言する。 ～について確認する。 ～に配慮する。 ～言葉かけをする。 など</p>	<p>(例) ワークシートの記述分析</p> <p>*評価の場面や評価方法について記述する。</p>
まとめ ○分			

(参考) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校理科(令和3年8月)』

国立教育政策研究所

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_rika.pdf

